

京都市交響楽団 2014 年度 指揮者陣プロフィール

■ 広上 淳一（第 12 代常任指揮者兼ミュージック・アドバイザー）

Junichi Hirokami, 12th Chief Conductor & Music Advisor

東京生まれ。東京音大指揮科に学ぶ。1984 年、26 歳で「第 1 回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクール」に優勝。以来、フランス国立管、ベルリン放響、コンサートへボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィルハーモニー管、ロンドン響、ウィーン響などメジャー・オーケストラへの客演を展開。1991～95 年にはノールシヨピング交響楽団、1998～2000 年にリンブルク交響楽団の各首席指揮者を、1997～2001 年ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、1991～2000 年には日本フィルハーモニー交響楽団の正指揮者を歴任している。

近年では、ヴァンクーヴァー響、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ響、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー響、ボルティモア響、シンシナティ響、カルガリー・フィルハーモニック、スタヴァンゲル響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ポーランド放響、スロヴェニア・フィルハーモニー管、サン・パウロ響等へ客演。2006～08 年には米国コロンバス交響楽団音楽監督を務め、ヨーヨー・マ、ミドリをはじめ素晴らしいソリストたちとの数々の名演とともに Denon レーベルにはチャイコフスキーの録音を残し、その実力を内外に知らしめた。

2007 年夏にはサイトウ・キネン・フェスティバル松本に招聘され、ハイドンとラフマニノフ、2008 年 5 月には小澤征爾の代役として急遽、水戸室内管弦楽団の指揮台に立ち、モーツァルト、ベートーヴェンほかのプログラムでともに絶賛を博した。

オペラ指揮の分野でも 1989、90 年のシドニー歌劇場におけるヴェルディの《仮面舞踏会》や《リゴレット》が高く評価されたのをはじめ、最近では、新国立劇場《椿姫》、日生劇場《フィガロの結婚》が記憶に新しい。

また、多忙な指揮活動と並行して、母校東京音楽大学教授としても後進の育成に情熱を注いでいる。京都市立芸術大学客員教授。2013 年 1 月「第 32 回藤堂音楽賞」受賞。

2008 年 4 月から京都市交響楽団第 12 代常任指揮者、2014 年 4 月からは第 12 代常任指揮者兼ミュージック・アドバイザーに就任決定。



写真クレジット Photo:Greg Sailor

■ 京都市交響楽団 Kyoto Symphony Orchestra

京都市交響楽団(京響)は、日本唯一の自治体直営オーケストラとして1956年創立。最近では、楽器講習会や音楽鑑賞教室、福祉施設への訪問演奏などにも積極的に取り組み、2007年「第25回京都府文化賞特別功労賞」、「京都創造者大賞2007」受賞。2008年4月、第12代常任指揮者に広上淳一、桂冠指揮者に大友直人が就任し、2009年からは「スプリング・コンサート」や「オーケストラ・ディスカバリー」など新企画で注目を集めている。録音では、広上淳一指揮「名曲ライブシリーズ」CD第1弾を2010年11月、第2弾を2012年2月に発売し、2013年9月には最新盤となる第3弾を発売。創立60周年という節目に向け、「京響」は今、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」を目指して更なる前進を図っている。

■高関 健（常任首席客演指揮者）

Ken Takaseki, Principal Guest Conductor



写真クレジット ©Masahide Sato

桐朋学園大学在学中の1977年にカラヤン指揮者コンクールジャパンで優勝。翌年同大卒業後、ベルリン・フィル・オーケストラ・アカデミーに留学、1985年までヘルベルト・フォン・カラヤン氏のアシスタントを務めた。

1981年タングルウッド音楽祭でレナード・バーンスタイン氏、小澤征爾氏らに指導を受け、同年ベルゲン交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。

1983年ニコライ・マルコ記念国際指揮者コンクール第2位。1984年ハンス・スワロフスキー国際指揮者コンクール優勝を経て、1985年1月に日本フィル定期演奏会で日本デビュー。大好評を持って迎えられ、1991年NHK交響楽団定期公演でも絶賛を博すなど、その後の活躍の礎とした。

国内オーケストラはもとより、ウィーン交響楽団、オスロ・フィル、ベルリン・ドイツ交響楽団、クラウン・フォーラム・ウィーン、ケルン放送交響楽団などに客演。2013年2月にはサンクトペテルブルグ・フィル定期演奏会を指揮、ロシアの名門オーケストラから豊潤な響を引き出し、聴衆や楽員から大絶賛を受けた。

2009年のピエール・ブーレーズ京都賞受賞記念ワークショップではブーレーズ氏から、ピアノのマルタ・アルゲリッチとチェロのミッシェル・マイスキーをソリストに迎えた2012年の別府アルゲリッチ音楽祭でのシCHEDリン作曲『ピアノとチェロのための二重協奏曲「ロマンティックな捧げもの」』日本初演では両氏からその演奏を絶賛されるなど、ソリストからも絶大な信頼を得ている。

オペラでは、二期会でモーツァルト「魔笛」(1990年、2007年)、「フィガロの結婚」(1991年)、モンテヴェルディ／ヘンツェ「ウリッセの帰郷」(2009年)、群馬定期公演でプッチーニ「トスカ」(1998年)、ヴェルディ「ファルスタッフ」(2003年)、すみだトリフォニーホールでプリテン「カーリユ・リヴァー」(1997年)等を指揮、2011年2月には「夕鶴」で新国立劇場オペラ公演にも初登場、いずれも好評を博した。

広島交響楽団音楽監督・常任指揮者(1986-1990年)、新日本フィル正指揮者(1994年-2001年)、大阪センチュリー交響楽団常任指揮者(1997年-2003年)、群馬交響楽団音楽監督(1993-2008年)、札幌交響楽団正指揮者(2003-2012年)などを歴任。特に群馬交響楽団からは、1994年「プラハの春」、「ウィーン芸術週間」各音楽祭を含む欧州公演を成功に導いたのをはじめ、その演奏水準を大幅に引き上げた功績により、名誉指揮者の称号を贈られている。

第4回渡邊暁雄音楽基金音楽賞(1996年)、第10回齋藤秀雄メモリアル基金賞(2011年)を受賞。東京芸術大学音楽学部指揮科招聘教授。 twitter.com/KenTakaseki

2014年4月より京都市交響楽団常任首席客演指揮者に就任決定。

■ 下野 竜也（常任客演指揮者）

Tatsuya Shimono, Guest Conductor



写真クレジット © Naoya Yamaguchi

1969年鹿児島生まれ。鹿児島大学教育学部音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部附属指揮教室で学ぶ。1996年にはイタリア・シエナのキジアーナ音楽院でオーケストラ指揮のディプロマを取得。1997年大阪フィル創立50周年記念を機に設けられた指揮研究員オーディションに合格、初代指揮研究員として1999年まで、(故)朝比奈隆氏をはじめ数多くの巨匠の下で研鑽を積む。

1999年文化庁派遣芸術家在外研修員に選ばれ、ウィーン国立演劇音楽大学に留学、2001年6月まで在籍。

2000年第12回東京国際音楽コンクール〈指揮〉優勝と齋藤秀雄賞の受賞、2001年第47回ブザンソン国際指揮者コンクール優勝で、一躍脚光を浴びる。以降、国内外の主要オーケストラに客演、その多くは再度の客演へと発展している。2009年には、ローマ・サンタ・チェチーリア管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団と国際的なオーケストラへの定期演奏会にデビューを果たし成功を収め、その後も2010年3月にシュツットガルト放送響にデビュー、10月にカンヌPACA管への再客演、2011年4月には南西ドイツフィルにデビュー、2013年6月にはアメリカのシリコンバレー交響楽団にデビューを飾るなど、急速に国際的な活躍の場を拓いている。

国内では、2006年、読売日本交響楽団の「正指揮者」に就任。2013年4月からは「首席客演指揮者」として、同楽団との意欲的な活動を継続している。くわえて国内主要交響楽団の指揮台に定期的に迎えられている。近年はオペラの分野での活躍も目覚ましく、新国立劇場「沈黙」、二期会「魔笛」「ヘンゼルとグレーテル」「メリー・ウイドー」「メデア」、日生劇場「ヘンゼルとグレーテル」「夕鶴」、首都オペラ「運命の力」などを指揮。吹奏楽にも熱心に取り組み、2011年1月には、広島ウィンドオーケストラの音楽監督に就任。アフィニス音楽祭、霧島国際音楽祭、宮崎国際音楽祭、別府アルゲリッチ音楽祭、サイトウ・キネン・フェスティバル松本など、各地の音楽祭にも招かれている。サイトウ・キネン・オーケストラとは、ニューヨーク・カーネギーホール公演にも同行し、アメリカデビューを飾った。学校コンサート、親子コンサートなどの教育プログラム、ジュニアオーケストラの指揮、指揮マスタークラス等、後進の指導、育成にも熱意を注ぎ、その活動は多岐にわたる。

2007年4月より上野学園大学音楽学部教授。

2002年出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、2006年第17回新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞、2007年第6回齋藤秀雄メモリアル基金賞、2012年第24回ミュージック・ペンクラブ音楽賞、第32回音楽クリティック・クラブ賞、平成24年度(第63回)芸術選奨文部科学大臣賞などを受賞。

2014年4月より京都市交響楽団常任客演指揮者に就任決定。